

第28回清瀬市みどりの環境保全審議会（要旨）

| | |
|--------|------------------------------|
| [日 時] | 平成30年8月1日（水） 10:00～16:00 |
| [場 所] | 現地視察、清瀬市健康センター 第3会議室 |
| [出席者] | 委員 8名、事務局 3名（水と緑の環境課） |
| [議事次第] | 1. 現地視察 2. 視察総括 3. その他 |
| [配布資料] | 次第、現地視察資料（第2回視察先の図面など） |

《1. 現地視察（公共施設のみどりの管理方針）》 《2. 視察総括》

事務局から、各施設の視察中にでた意見を紹介した後、議論を始める。

清瀬第四小学校

《事務局からの紹介（以降も同様に、「事務局からの紹介」⇒「各論」という流れ）》

- ・ 駐車場北側のタケが枯れている。
- ・ ナンキンハゼが3本あり、校舎に近いものは建物を傷めるため伐採、傾きの大きいものも腐りが入り、将来的に危ない。名木に指定されたものを大事に管理すること。
- ・ 南側のサクラの間隔が狭い。強剪定するくらいなら、間隔を広げるために伐採。
- ・ 低木の間から、ツルや他の木が生えており、弱る原因なので早めに除去すること。

【南側のサクラ列植について】

- ・ サクラの間隔が近すぎ、中1本ずつ抜いていっても良い。
- ・ 玉川上水のサクラは当初18m間隔、幕末にその間に1本ずつ植えられて9m間隔になっているが、それで少し近いという印象なので、10m以上くらいが目安ではないか。
- ・ サクラにヒマラヤスギが近接・混在し、サクラが弱るため、ヒマラヤスギは不要。

【タケの更新】

- ・ タケはモウソウチクで、5年で活力がなくなる。5年以上経っているものがあり、それを残すと次の世代のタケノコが出ないので、古いものは除去したほうが良い。

芝山小学校

- ・ 通用門左手の大きなイチョウ・スダジイは伐採して、大きくならず、かつ遮へいできる常緑樹、例えば既存のモチノキを境界から離して植えるのが良い。ハナミズキは落ち葉がでるので、境界付近には良くない。
- ・ 校舎付近のメタセコイア2本は、シンボルとして残すなら、校舎側は伐採でよい。
- ・ 線路沿いのマテバシイは防音効果があるので、剪定しながら残すか、部分的にあっ

たカエデを生かして、マテバシイを切るということも考えられる。

【通用門とプールの間ヒマラヤスギについて】

- ・場所が悪い。シンボルでもないの、早めに切ってしまった方がよい。
- ・樹高は止めているが、将来的にもっと大きくなり、伐採費用が膨らんでしまう。

【校舎そばのメタセコイア2本について】

- ・2本は近接し、校舎にもかなり近い。既にかなり高木だが、さらに大きくなる。校舎側は絶対切ったほうがよく、片方は残してシンボルツリーにする選択肢もある。

【校舎南側のシモクレンについて】

- ・校舎と距離が近く、建物が傷むので切った方がよい。
- ・邪魔にはなっていない。・校舎に触れている部分の剪定くらいは必要。
- ・校舎を傷つけるなら切っても仕方ないが、花木が少ないので、できれば残したい。

【通用門近くで、遮へい機能を果たす樹種について】

- ・剪定に強いモチノキも良いが、葉が黒くなる“サビ病”があることも意識に置き、「大きくなならない」「隣と遮へいできる」という機能を軸にした樹種選びが大事。
- ・フェンスから離して、裏側からも剪定できるスペースを作れるとよい。

【その他】

- ・学校には珍しく、スタジイが数本あり、実のなる木は可能な限り残してほしい。
- ・子どもが立ち入る場所で根が踏み固められてしまうので、特に校舎に近い樹木はレンガで囲うなど、根のケアはしたほうがよい。

コミュニティプラザひまわり

- ・南東の雑木林の東側の新しい住宅と距離を保つため、境界から5mを目安に伐採したほうがよい。越境している樹木は、今後も繰り返になる。
- ・建物のすぐ南側の大木は、日影になるので、定期剪定が必要。建物際にあるビワは伐採した方がよい。クスノキの枝が密集しているので、中の枝を抜いたほうがよい。
- ・隣接する緑地帯（市有）にあるコナラは伐採した方がよい。
- ・生け垣は、間隔も十分で、枝葉もよく手入れされている。このまま維持してほしい。

【敷地に隣接する緑地帯（市有）のコナラについて】

- ・景観を守っており、公共施設だからこそ、苦情になるまでは木を守ってほしい。
- ・繰り返し剪定して残すのが良いか、悪さをしない木に植え替えが良いか、の判断。

【その他】

- ・建物で「コの字」に囲まれたイチョウ4本は、太くなる前に伐採したほうがよい。
- ・トウネズミモチ（環境省要注意外来生物）が、車椅子駐車場の北側の出口の角に1本、グラウンドの北西側に2本あったので、除去した方がよい。

清戸自然公園

- ・公園のコンセプトを決めること。ここはコナラ等の雑木林の構成種（コナラ・クヌギ・ヤマザクラ）を残し、その他やイヌシデの実生などは競合するので伐採。

- ・団地から5mは離すように伐採。
- ・枯れが目立つ。危険なものは優先的に伐採。

【今後の管理について】

- ・竹丘公園、金山緑地公園のような雑木林プラス広場は利用者も多い。同じような形にできれば、親しみも今より湧くのではないか。
- ・一気に良い林はできない。枝が折れて停電になったこともあり、切らなくてはならない箇所があるので、目安として、境界から5mの緩衝帯を作ることが直近の課題。
- ・第一段階は、切ることは後回しで、残す木をチェックして、不要樹木がなくなったときをイメージすること。現状を認めた上で、皆伐、あるいは大きな光が差し込む空間を作る、あるいは大きな木は残してそのまま、といった選択肢でどうやっていくか。まず気をつけることは、周囲に枝葉が落ちる不安のない空間を作ることと、林の中は、不要木を少しずつ整理して、より良い方向にもっていくのが現実的。
- ・清戸「自然」公園という名前から、清瀬市で昔から使われてきた自然を残す、といった意味にも取れる。コンセプトをきちっと決め、例えば、「武蔵野で利用してきた林の保全」ということなら、外来種除去、ササ刈りなどの整備が考えられる。
- ・非常に樹高が高いので、間伐しながら、方針を考えなくてはならない。大きいものはコナラ・クヌギ・ヤマザクラといった昔の雑木林の木で、それ以外にはムクノキ、イヌシデがある。どれを残すか、考える必要がある。
- ・キンラン・ギンランもあり植生も豊かなので、ササ刈り・下刈りくらいは定期的に行けると良い。中はムクの実生を間伐していけば良い林になる。
- ・事前にガマズミやツリバナにマークして残して、あとは切っていけばよい。

児童センター・神山公園

- ・北側のサクラの間隔が狭い。弱っているのは伐採し、間隔を見直す。
- ・芝生広場横の樹木が多い。かなり競合しているので、間を空けるように剪定する。例えば、陽の当たっていない小さなキンモクセイの生育に影響がでないように。
- ・駐車場付近のサクラ2本に腐りが入っているため、剪定が必要。ひこばえも剪定。

【サクラの切り方について】

- ・ひこばえの剪定は毎年必要。
- ・下手に切ると、切った箇所から腐る。水平切りなど、水が溜まる切り方は駄目。
- ・切る前に、支柱などの手法も考えてほしい。寿命で切るべきものは切るとしても、市の「木を大事する」姿勢を見せるためにも、“目に見える養生”をやってほしい。
- ・サクラは切り口が癒合せず腐りやすいので、防腐剤の後は雨を入れない対応が必要。

清瀬第十小学校

- ・北側のサクラの樹勢は全体的に良い。道路側は細い枝中心に切って、校舎側は残す。
- ・サクラに数本、腐りが入って危険なものがあるので、早めの処置が必要。
- ・正門向かって右のケヤキの切り方（強剪定）が良くない。3,4年で伸び、繰り返す

強剪定される。児童にのびのびした木を見せる場所で、木の尊厳を無視している。

- ・奥4本のケヤキ（強剪定）も同様。せめて間1本ずつ抜いて、間隔をとって枝を伸ばせるようにすれば、樹形の改善とともに管理費も抑えられる。
- ・シュロが残っているが、良い残し方ではないので、伐採した方が良い。
- ・西側、南側のイチヨウの間隔が狭い。15本あるが、10本くらいが適正。
- ・東側のサクラは、いずれもベッコウタケが根元付近に生えており、中が腐っていると思われる。倒れる可能性もあるので、危険度の判定が必要。

【東側のサクラに付着したベッコウタケについて】

- ・放っておいたらすぐに枯れる。周りはスカスカなので、健全な部分まで削って防腐処置が必要。菌は全滅が難しく、復活するので、同様の処置を繰り返す。
- ・一般的に、木の弱り方は、葉が減り、梢が枯れ、垂れ下がる。今日見たサクラは、まだ判断を急ぐ段階ではないが、間違いなく中は腐っている。
- ・既に処置を施した部分も見られるので、教育と相談しながら対応を進めた方が良い。

中清戸サンビレッジ児童遊園

- ・ケヤキが多い。樹形を無視して切るのなら、シンボルツリーのクスノキだけで十分。
- ・視察中も、ケヤキの落ち葉処理が大変なため、「大きくならない木」「安全に遊べる見通しの良い公園」という近隣からの要望があった。
- ・条例の緑化基準（面積〇㎡につき▲本植栽）は、場所を考えずに一律にあてはめてよいのか。この公園の植栽は“失敗例”であり、見直す必要があるのではないか。
- ・境界付近のヒイラギモクセイの列植は、園内からの砂埃の遮へいは果たしているが、すぐに大きくなる。目隠しなら、大きくならないイヌツゲのほうが手はかからない。

【高木（ケヤキ）の伐採について】

- ・ケヤキは、強剪定しても数年で育って苦情になる。切り株をイスにしてはどうか。
- ・あれだけの数のケヤキが鬱蒼としていたら、落ち葉含め、近所の色々な不満も当然。
- ・ここに限らず、図面は生長後の樹木まで描かれないので、見直すべき植栽もある。

視察先のまとめ：ヒマラヤスギ、メタセコイアなど、流行種を追加植栽したため、混在している。もう一つ、木が大きくなることを意識していない。

今日のポイント：まず、樹木が住宅と隣接する場所は、境界から5mを目安に空けて、影響がないようにすること。それから、特に学校は、木の間隔を意識すると同時に、切るときは樹形を大事に、樹形を無視するくらいなら伐採も検討したほうが良い。剪定後は、樹種によっては防腐処理し、水が溜まるような切り方はすべきでない。今日の視察先の多くはあまり手が入っておらず、危険木など急を要するもの、弱っているものなど、順番を決めながら、整理していく必要がある。

《3. その他》 次回の日程：10月9日（火）